



令和3年9月17日  
海上保安庁

## コロナ禍における2回目の夏、事故は減少 夏季(7-8月)のマリンレジャー活動に伴う 船舶事故・人身事故発生状況(速報値)

- プレジャーボート等の船舶事故は275隻(259件)(前年比25隻減少)  
このうち、運航不能(機関故障)が減少(前年比19隻減少)
- 人身事故は205人(前年比17人減少)  
このうち、遊泳中の事故が増加(前年比3人増加)

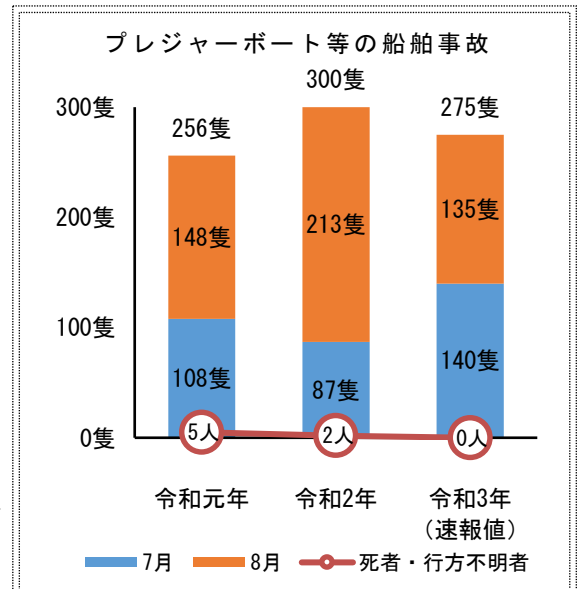
### プレジャーボート等の船舶事故発生状況

- 船舶事故は275隻(259件注)(前年比25隻減少)
  - 船舶事故に伴う死者・行方不明者数は0人
  - 運航不能(機関故障)が103隻(前年比19隻減少)
- <推定要因>

7月は梅雨明けが例年より早かった地域が多く、また、比較的天候も恵まれ事故が増加しましたが、一方で、8月は事故が大幅に減少し、降水量が記録的に多く、日照時間が少ないなど、天候に恵まれなかったことにより、プレジャーボートの活動が控えられ事故が減少した可能性が考えられます。

注:件数は、船舶同士の衝突及び火災の延焼が発生した場合、関係する船舶を1件としてまとめている。

※事故隻数は、民間救助機関が救助した船舶事故を含む。

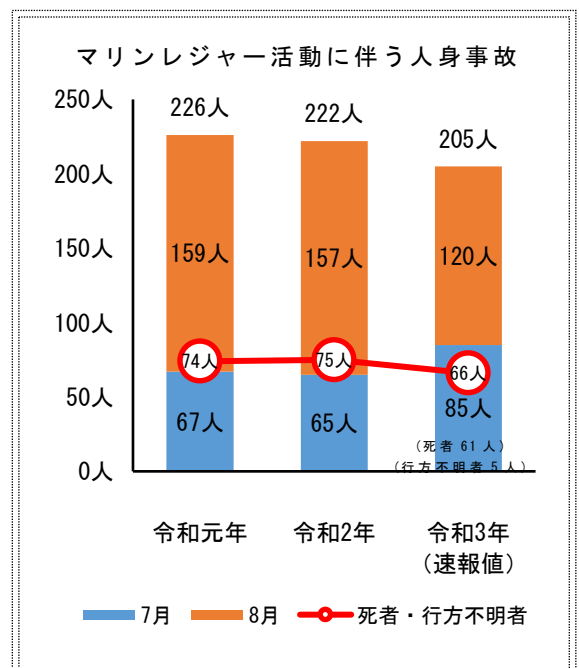


### マリンレジャー活動に伴う人身事故発生状況

- 事故者数は205人(前年比17人減少)
  - 死者・行方不明者数は66人(前年比9人減少)
  - 遊泳中の事故者数は91人(前年比3人増加)
  - 不開設の海水浴場における遊泳中の事故者は12人(前年比11人増加)
- <遊泳中の事故の推定要因>

7月は、船舶事故の増加要因と同じく、天候に恵まれたこと、また、不開設になった海水浴場が多数あり、海水浴場以外の海岸で遊泳する方が多く事故が増加した可能性が考えられますが、一方で、8月の遊泳中の事故は前年と比較し大幅に減少しており、天候に恵まれなかったことにより、活動が控えられ事故が減少した可能性が考えられます。

※事故者数は、民間救助機関が救助した事故者は含まない。

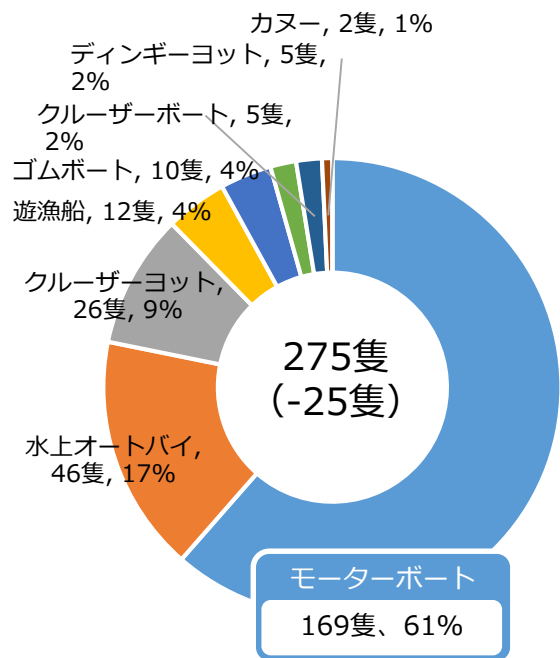


## ポイント

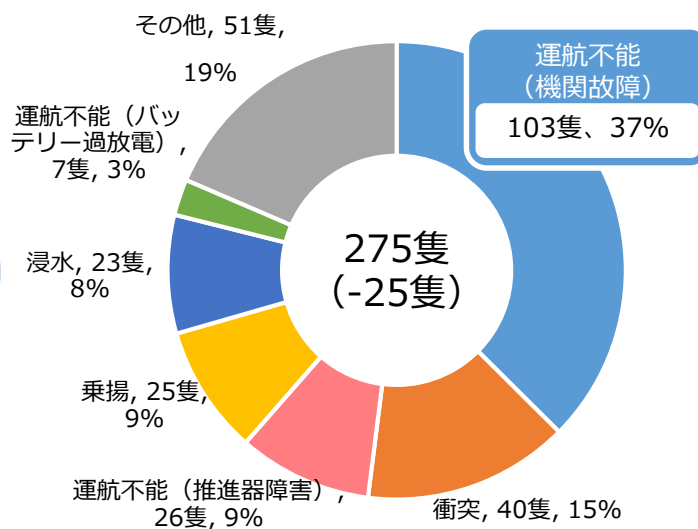
- ▶ 船舶事故隻数：275隻（前年比25隻減少）、死者・行方不明者：0人（前年比2人減少）
  - ▶ 運航不能（機関故障）の船舶事故は、プレジャーボート等の船舶事故全体の約4割となる103隻で最多（前年比19隻減少）
- 小型船舶操縦士試験合格者が急増し、新艇及び中古艇の流通も好調。アウトドア志向によりマリンレジャーが選好された可能性

## 詳細

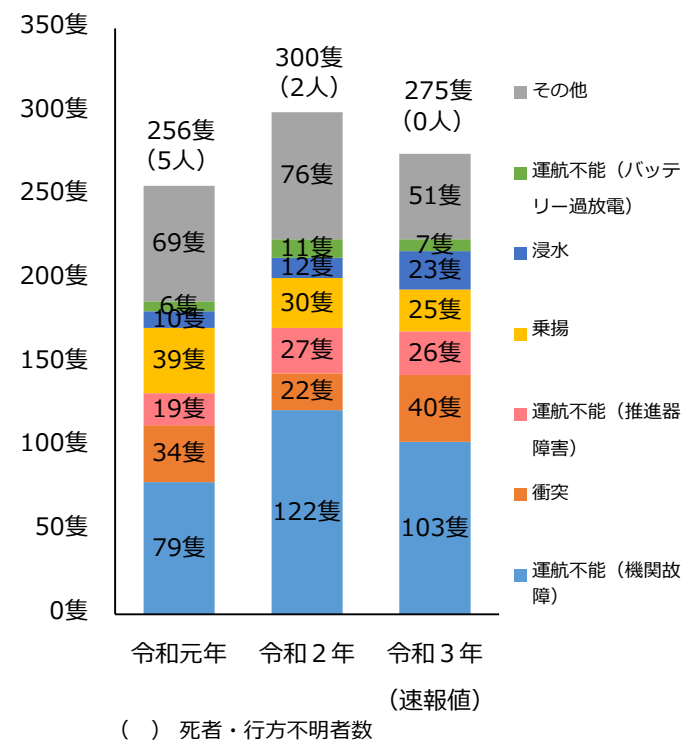
### 【プレジャーボート等種類別】



### 【海難種類別】



### 【海難種類別推移】



※円グラフの中央（ ）書きは前年比の増減隻数

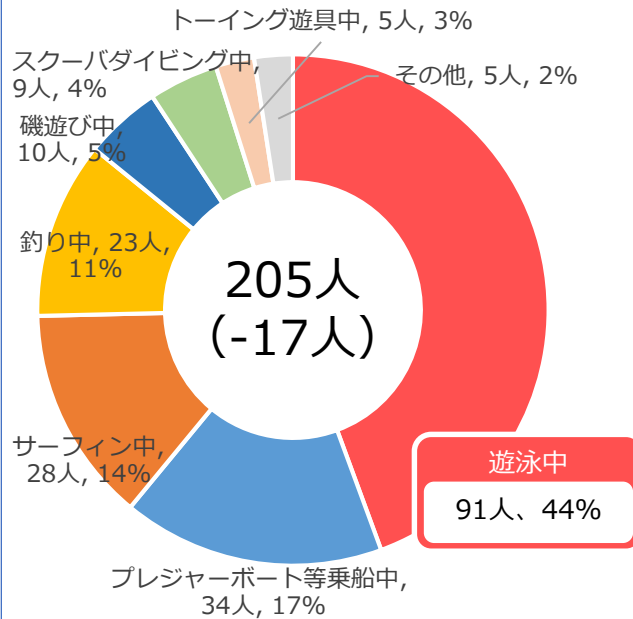
※「プレジャーボート等」とは、プレジャーボート（モーターボート、ヨット、カヌー、水上オートバイ等）及び遊漁船をいいます。

## ポイント

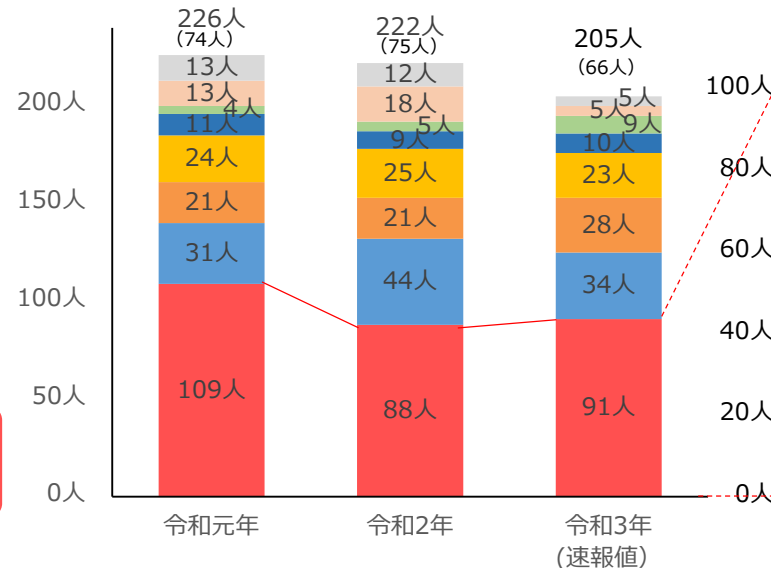
- ▶ 人身事故者数：205人（前年比17人減少）、死者・行方不明者：66人（前年比9人減少）
- ▶ 遊泳中の人身事故は、マリンレジャー活動に伴う人身事故全体の4割となる91人で最多（前年比3人増加）  
このうち、海水浴場以外の海岸で発生した事故は67人で遊泳中の人身事故の7割を占めた
- ▶ 不開設海水浴場の遊泳中の人身事故：12人（前年比11人増加）

## 詳細

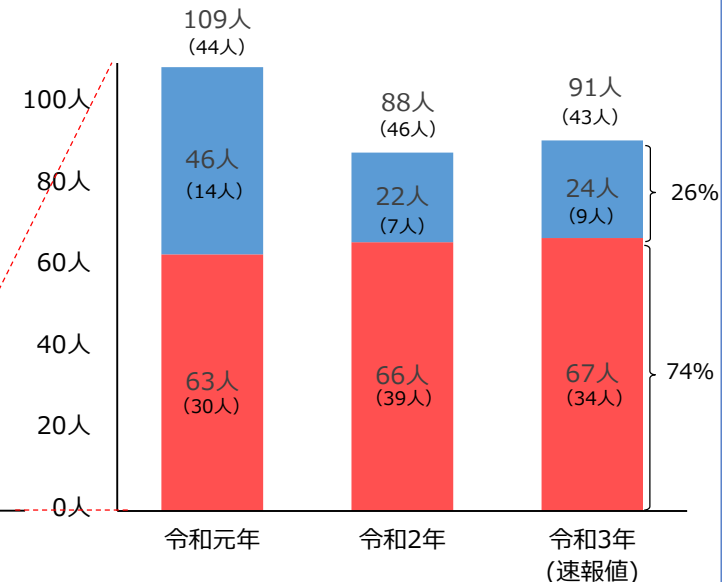
### 【活動内容別】



### 【発生状況推移】



### 【遊泳場所別推移】



**不開設海水浴場の遊泳中の人身事故12人(前年比+11人)**

「マリンレジャー活動」とは、海水浴、釣り、潮干狩り、サーフィン、ボードセーリング、スクーバダイビング等の海浜における余暇活動並びにプレジャーボート及び遊漁船による遊走等としています。

# 主な事故事例

## 船舶事故

年月日 令和3年8月28日

場所 佐賀県唐津市沖

事故船舶 プレジャーボート 4人乗り

海難種類 運航不能（機関故障）

概要 釣りを終えて帰港しようとしたところ、エンジンがかからず運航不能になったもの。知人に救助を求めて、最寄りの港まで知人の船舶により曳航救助された。

年月日 令和3年8月28日

場所 兵庫県明石市沖

事故船舶 遊漁船 15人乗り  
プレジャーボート 2人乗り

海難種類 衝突

概要 航行中の遊漁船と漂泊中のプレジャーボートが衝突したもの。プレジャーボートは沈没し、乗船者2人は遊漁船に救助された。

## 人身事故

年月日 令和3年8月11日 海水浴場以外

場所 茨城県東海村 新川河口

事故者 10代 男性

活動内容 遊泳中

海難種類 その他（行方不明）

概要 事故者は、友人4人と遊泳中、波にさらわれ行方不明になったもの。

年月日 令和3年8月29日 海水浴場以外（不開設海水浴場）

場所 静岡県下田市 田牛海水浴場

事故者 40代 男性

活動内容 遊泳中（スノーケル使用）

海難種類 溺水

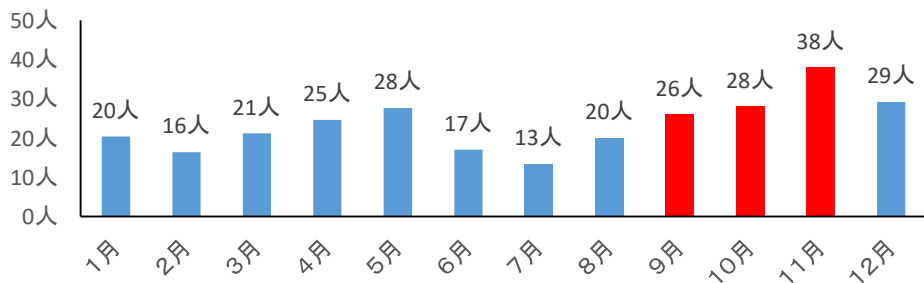
概要 事故者は、スノーケルを使用して遊泳中に溺水したもの。付近遊泳者等に救助されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。

## 釣り中の人身海難発生状況

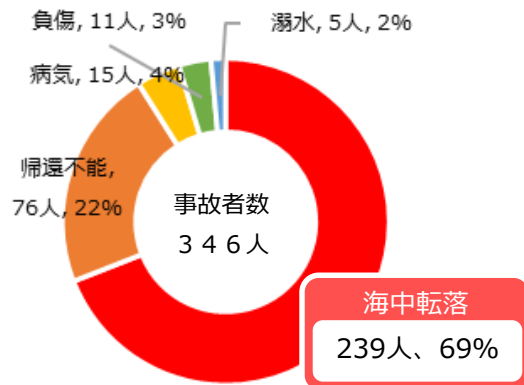
過去5年間の傾向として、8月以降に釣り中の事故が増加しており、昨年発生した事故のうち、5割以上が8月以降に発生しています。

昨年発生した事故内容別では海中転落が約7割を占め、足を踏み外したり、波にさらわれたことによる事故が多く発生しています。

### ○釣り中の人身海難 過去5カ年（H28-R2）平均



### ○令和2年 釣り中人身海難（事故内容別事故者数の割合）



## 釣りの事故防止対策

### ○釣りを安全に楽しむための最低限必要な装備

- ✓ ① ライフジャケット
- ✓ ② 釣り場に応じた履物
- ✓ ③ 通信装備（防水ケース入り携帯電話）



### ○釣りを安全に楽しむための留意事項

- ✓ ① 無理をしない（天気予報の確認と体調管理）
- ✓ ② 単独行動をしない
- ✓ ③ 釣行計画を第三者に伝えておく
- ✓ ④ 立入禁止区域に入らない

のポイントを守り「安全第一」で楽しみましょう。

**Water Safety Guide**（釣り編）でより詳細な安全情報を掲載していますので合わせてご覧ください。

Water Safety Guide  
（釣り編）QRコード



## 事故事例の紹介

○気象・海象に注意しましょう。

[事故事例]

岩場で事故者（20代男性）は釣りをしていたところ、突然の大波によりさらわれて海中転落しましたが、無事救助されました。



[事故事例]

防波堤で事故者3人は釣りをしていたところ、3名とも高波にさらわれ海中転落、うち1名（50代男性）が行方不明になりました。



当時は波浪注意報、高潮注意報等が発表されていました。

[対策]

波の高さは一定ではありません。100波に1波は1.5倍、1000波に1波は2倍近い高波が出現します。**事前に最新の気象・海象情報を入手し、波浪注意報等が発令されているときは決して無理をしないように**しましょう。

○立入禁止区域には入らないようにしましょう。

[事故事例]

深夜、護岸で事故者（30代男性）は釣りをしていたところ、誤って海中転落し救助されましたが、病院へ搬送後死亡しました。なお、護岸は立入禁止に設定されておりました。

[対策]

立入禁止区域は、そもそも**安全上の理由や、保安上の理由で一般人の立入りが制限されている場所**です。

それを改めて理解し、**絶対に立ち入らないように**しましょう。



○釣り中の飲酒は控えましょう。

[事故事例]

深夜、防波堤で事故者（50代男性）は釣りをしていたところ、誤って海中転落、行方不明になりました。なお、事故者は釣り開始時から飲酒をしていました。

[対策]

アルコールの影響で判断力が鈍ることにより、飲酒をしない状態と比べ、誤って海中転落する可能性が大きくなります。**釣り中の飲酒は控えましょう。**



## 事事故事例の紹介 (SUP)

○海に出る前にSUPに必要な技術を身に着けましょう！

### [事故事例]

事故者は海岸付近で1時間程度の練習のみで十分な知識・技術がない状態であったにもかかわらず、近くの島を1周することを思いつき漕ぎ始めたところ、バランスを崩して落水、ボードに再乗艇することができず沖に流されて帰還不能となりました。

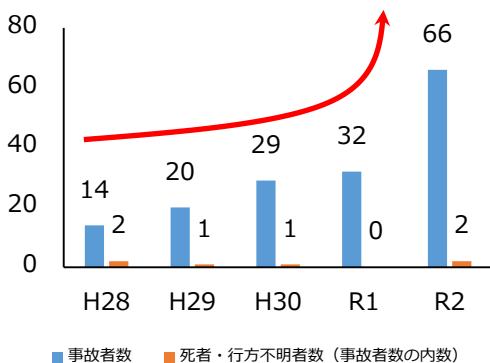
### [対策]

海に出る前に関係団体が行っているスクール等で必要な技術を身に着けましょう！

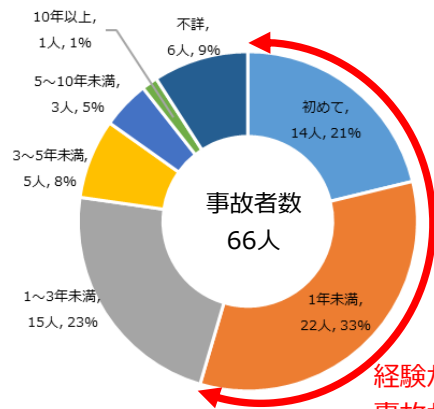
## 人身海難発生状況

SUPの事故は、手軽さから近年増加傾向にあります。特に令和2年は、事故者数が前年の2倍以上となっていることから、コロナ禍において「密」を避けて楽しめるマリニアクティビティの一つとして、SUP人口が急速に増えていることが考えられます。

【事故者数及び死者・行方不明者数の推移 (過去5年間)】

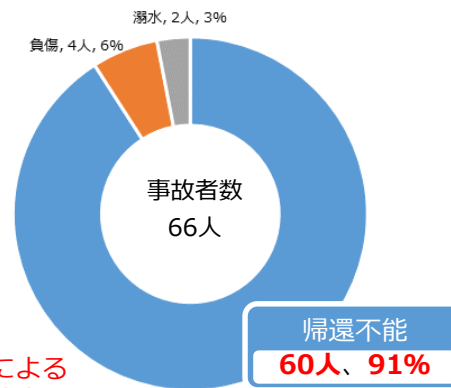


【経験年数の割合 (令和2年)】

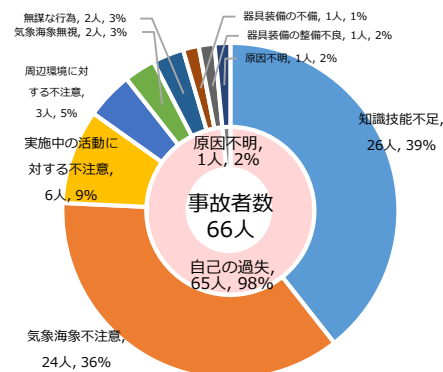


経験が浅い者による事故が5割以上

【事故内容別の事故者数 (令和2年)】



【事故原因の内訳 (令和2年)】



- ・ 初心者 (経験年数 1年未満) の事故が半数を占めている。
- ・ 知識・技能不足、気象・海象不注意により、帰還不能に陥るケースが9割を占めている。

## 海の総合安全情報サイト

### Water Safety Guide (SUP編)

で詳細な安全情報を掲載していますので合わせてご覧ください。



Water Safety Guide (SUP編) QRコード



## 事事故例の紹介 (水上オートバイ)

○旋回や減速時などを行う際には安全確認をしましょう！

### [事事故例]

水上オートバイ2隻が遊走中、水上オートバイA号は、水上オートバイB号を追い越した後、B号の進路を遮るように急旋回したことにより、水しぶきで両船の視界が不良となり、水しぶきの中から突然現れた相手船を互いに避けることができず衝突しました。

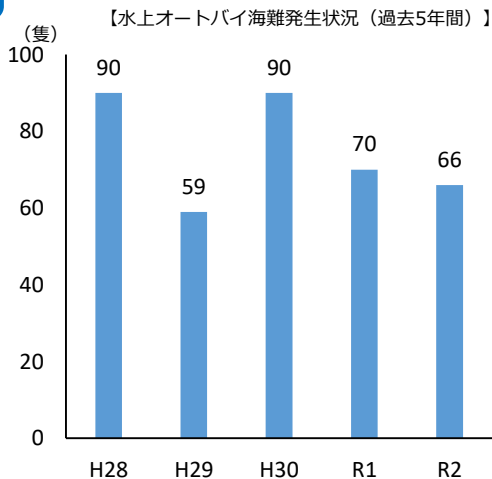
### [対策]

**危険な操縦や無謀な操縦は、操船不適切や見張り不十分につながるため、絶対に止めましょう。**

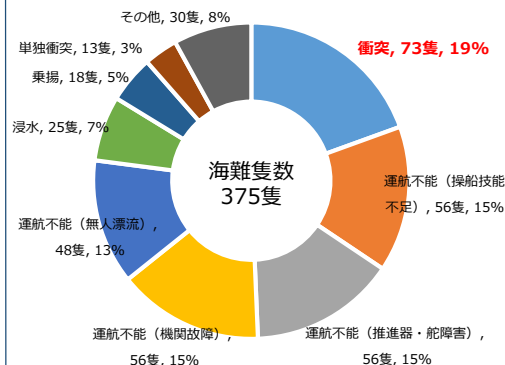
また、船の特性や自己の操船技量を把握すると共に、旋回や減速時などを行う際には安全確認を必ず行うようにしましょう。

## 船舶海難発生状況

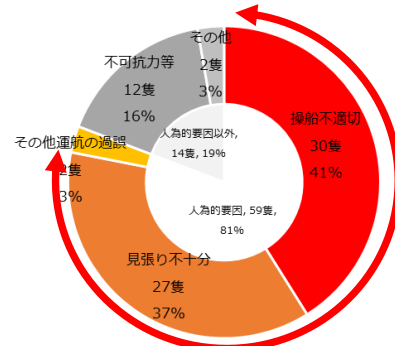
令和2年の水上オートバイに係る船舶海難は66隻で、近年は減少傾向にあります。また、過去5年間の合計では衝突が最も多く発生しており、操船不適切や見張り不十分が原因となっているものが約8割を占めています。



【海難種類別発生割合 (過去5年間)】

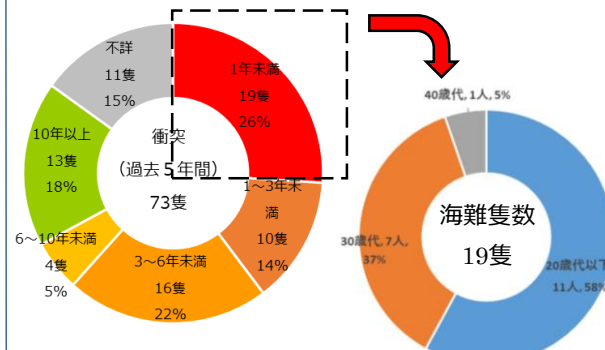


【衝突の原因別発生割合 (過去5年間)】



操船不適切、見張り不十分が約8割

【衝突における経験年数別発生割合 (過去5年間)】



経験年数1年未満のうち、20歳代以下によるものが約6割

- 衝突のうち、操船不適切と見張り不十分が原因によるものが全体の約8割を占めている。
- 初心者（経験年数1年未満）のうち20歳代以下の事故が半数を超えている。

## 海の総合安全情報サイト

### Water Safety Guide

(水上オートバイ編) で詳細な安全情報を掲載していますので合わせてご覧ください。



Water Safety Guide (水上オートバイ編)

QRコード

